

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム みたき	ユニット名	櫛
所在地	仙台市青葉区八幡7-14-17		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食べることを大切にし、誕生日には、手作りのケーキやお花のプレゼントを行い、入居者様スタッフでお祝いします。日頃の生活も入居者様ができることを大切にし、スタッフと入居者様が楽しく過ごせるように工夫を行っています。食事を入居者様の希望をお聞きし、食べやすいように工夫したり、季節の果物を提供しています。また、自家製の甘酒を提供し、栄養の面と腸内環境を整えることを目的にしつつも、甘酒自体を楽しんでいただいています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 12 月 23 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR仙山線葛岡駅から南に徒歩10分程の小高い住宅地の一角にある。職員が道路の除草や除雪を行い、住民から感謝されている。ユニット毎に「入居者の気持ちに添って」や「入居者の個性を尊重し」等の理念を掲げている。法人の医療機関が協力医になっており、住診や相談等連携が取れている。常勤の看護師4名が健康管理や医療との連携を担っている。入居者の楽しみである食事は好みのメニューに応え、新鮮な野菜や食肉を使って提供している。コロナ禍ではあるが、楽器の演奏や合唱など音楽療法を取り入れ、ドライブや買い物等入居者の楽しみや笑顔を大切に日々支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム みたき** )「ユニット名 **樺** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とユニットの理念を掲示し、研修やミーティングを通してスタッフと共有を図っています	ミーティングで理念の「入居者の気持ちに添ったケア」や「その人らしく生活できる支援」等話し合っている。食事が美味しかった、楽器の演奏が良かったなど入居者が楽しみ、笑顔が見られるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶や会話、また雪かきなどを通して近隣の方とのつながりを持っています。羊を通して犬を散歩されている方ともつながりが持てました	地域の親和会から回覧板が届いている。防災訓練や文殊堂のお祭り等に参加している。道路の除雪や草刈り作業を行い感謝されている。羊を飼っていて、地域の方が散歩の途中や子ども達が見に来て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前はイベントを通じて、それ以降も散歩を行ったりしてどのような方が入居されているかを近隣の方に知ってもらっています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が出来なかったのですが、法人内での話し合いや外部の方、訪問歯科や訪問マッサージ方との意見交換は行っています	メンバーは地域包括職員や民生委員、家族代表、入居者となっている。コロナ感染もあり、会議は開催していない。書面による開催も行っていない。地域包括と開催について話し合っているが、開催には至っていない。	入居者やサービスの状況、評価の内容等報告や話し合いを持ち、意見をサービスに活かす取り組みが求められている。運営推進会議を年6回以上開催することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの連絡や生活保護の方の対応を通じて協力関係を築いていると思います	市の担当者と生活保護に関する手帳の更新や身上等の相談をしている。地域包括が主催している「はちまん連携の会」にオンラインで参加し、成年後見や身寄りのない方のフォロー等を研修している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束に当たるのか、研修やミーティングを通してスタッフに周知し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます	2カ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、「身体拘束をしないために」等テーマを決めて検討し、職員にミーティングで伝えている。ベッドから落ちる方について、原因が寂しい思いが強いことを聴き、皆の居る場所に誘導している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる不適切なケアについて研修を行い、日々のケアの中でどのようなことが虐待に当たるかを確認しています。虐待などのニュースがあるとスタッフとどう思うか話を聞いたりどうすれば良かったかを検討したりします	「ちょっと待って」等きつい言葉や制止はその都度職員間で注意し合い、安全確認や見守りで対応するようにしている。法人が行うメンタルチェックのフォローがあり、管理者が職員の話しを聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習し、以前は成年後見制度を活用したいご家族の相談にも乗っていました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの疑問や質問があった時には、できるだけわかりやすく専門用語などを使わずに説明を行います。また、いつでもご相談くださいと伝え、相談しやすい環境を作っているつもりです		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との話し合いの中でご意見や希望をお伺い対応を行っています。ご家族へは積極的に話しかけ、ご意見を引き出せるようにしています	家族から面会の要望があり、事前に連絡をもらい玄関先で行っていたが、冬季は居室で行うようにした。会話の後マスクを外し顔を見てもらっている。遠方の家族とは入居者の様子やワクチン接種など毎月連絡している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人ひとりとできるだけ話をしたりしてスタッフが何を考えているのかを把握し、ミーティング時には全体の中での考えを聞くようにしています	職員から提案のあった、食器を軽いものに、ごはん茶碗を色付きの物に換え、誕生会にデザートバイキングを取り入れている。希望休やシフトの変更は柔軟に対応している。スキルアップ研修の希望に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや普段の勤務状態などを把握し努力している部分は認め、感謝を伝えています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の参加を通じて他の事業所の考えや気づいたことを伝え知識や技能の向上を図っています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携の会への参加や研修会を通じてネットワークづくりを行っています。実際に、研修で知り合った方からの入居者様に関する相談などもありました	法人のデイサービスの職員が来て、レクリエーションの指導をしてくれている。音楽療法士も来訪し、楽器の演奏や合唱を行っている。ケアマネ研修で知り合った職員と地震後の対応や感染対策等情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのようなことで困っているのか、また、どのように過ごされているか、情報を収集し、安心して過ごして頂けるように支援を行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の見学、相談の段階からお話を聞き関係している相談員からも情報を得て、どのようなことを不安に感じるかを把握し、関係作りを行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、何を求めているかを見極め、他の関係者とも相談しどのような対応ができるかを考えています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に手伝っていただけることは参加していただき、良くお話を伺い安心して生活していただける関係を作れるようにしています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が不安に思っていること、入居者様の現在の状態から今後認知症が進行した状態のことなども含めお話をしています		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲での面会を行い、ご家族との関係性が途切れないようにしています	週2回の訪問マッサージや2か月に1回の訪問理容師と馴染みの関係が続いている。デイサービスを利用し知り合いと会う機会がある。日用品や菓子類などを買いに馴染みの店や近くのコンビニに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や、必要な支援について把握しスタッフが間に入りたりして孤立しないような関係を作っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族とも関係の継続を行っていることもあります		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるようにどうしたいのか、どんな希望があるかを聞き出し、できるだけ意向に添えるように支援を行います	洗濯物畳みや飾り物作り等一緒にするとき「何が食べたい、何がしたい」等聞いている。可能なものはすぐに対応している。意思表示が難しい方の笑顔や食の進み具合など、表情の変化を察して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを基に情報収集を行ったり、会話の中から生活歴を拾ったりして状況の把握をおこないます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の希望を伺うとともに柔軟な対応ができるようにしています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態の変化を把握し、スタッフからも意見を聞き、現状に即した介護計画になるようにしています	日頃の確認や担当者の意見を聞いて、3か月毎にモニタリングして6か月・12か月毎に見直している。骨折で退院した入居者に移乗の確保や歩行の機会、離床の促進等計画に入れADLの低下を抑えるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録などを参照に情報の共有を行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族のニーズを把握し、柔軟な対応を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人本部の相談員とも連絡を取り、ご本人に使えるサービスや地域資源が無いかを確認しつつ支援を行っています		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化や往診時を利用し入居者様の健康状態の把握や、体調の変化を報告しています。必要であれば受診を行います	全員、協力医をかかりつけ医にしている。内科と精神科の主治医が月1回往診に来る。休日や夜間、救急時等対応している。訪問歯科は毎週1回来訪している。看護職員が4名おり、健康管理や医師と連携している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、内服や軟膏などの相談を適時行い、適切な受診や看護が受けられるようにしています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	転院先の相談員とも連携を取り、また、ご家族様とも連絡を取りつつ、情報の交換や受け入れ時期について相談を行っています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時の入居者様の状態について報告を行い、ご家族の希望と今後の方針をかかりつけ医とともに相談を行っています	「入居者が重度化した場合における対応に関する指針」で入居時に説明している。状態の変化に応じて医師や職員が連携して家族の意向に添う支援をしている。過去4名の方を看取ったが、ここ1年は病院へ転院している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練や緊急連絡グループを作りどのような状況かを速やかに連絡を行います		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網や法人本部との連携を取り避難の対応を行っています	年2回マニュアルに基づき火災、昼間想定訓練を行っている。目標達成計画の「訓練後の反省や報告」は達成している。地域住民の参加はコロナ禍の状態で自粛している。	年2回の訓練は行っているが、夜間想定訓練は行われていない。最低年1回夜間想定訓練を実施してほしい。災害発生時に地域の協力は必要であり、訓練への参加をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を尊重し対応を行っています	馴れ馴れしい言葉遣いや声がけはしていない。呼び名は名前にさん付けで行い、トイレの誘導や失敗時等耳元でやさしく他に聞こえないよう声がけている。居室への入室はノックして要件を伝えて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいのか、どんなことをしたいのかをお聞きしながらご本人の思いにより添えるように対応を行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況やご本人の訴えによって活動のペースを変えて対応を行っています。また、個別な対応も柔軟にできるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、ヘアカットの時にはヘアスタイルを聞いたり支援を行っています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、好みを聞いたり食べたいものをお聞きし献立を作り食事を楽しんでいただけるように工夫をしています。また、盛り付けや食器を拭くことを手伝っていただいています	献立や調理は職員が行っている。うどんや肉じゃが等食べたいものや好きなものを聞いて出している。誕生会に寿司や刺身、手作りケーキ、果物が喜ばれる。季節ごとにはらこ飯や冬至カボチャ等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量については記録や状態をスタッフで共有し、入居者様の体調を観察しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のアドバイスを基に口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握を行っています。歯科衛生士さんからもきれいに磨けていると評価していただいています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のトイレ誘導を行い、トイレで排泄できる方はトイレでの排泄を目指しています	起床時や食事、おやつの前後に声かけ誘導している。個人のパターンや立ち上がり等の動作で誘導している方もいる。日中はほとんどがトイレで排泄し、個々に適したパッドを使用し軽量化を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒の提供やヨーグルト、キノコを取り入れたり腸内環境を整え、薬に頼らない排便習慣を目指しています。実際に改善も見られた方もいらっしゃいます		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の時間に希望を聞いたり、入浴日の変更など柔軟に行い、ゆったりと入浴できるように支援を「行っています	週2回が基本になっているが、汗や濡れた時等シャワーを使っている。湯加減は調節し、入浴剤を使用している。入浴を嫌がる場合は順番やスタッフを変えて対応している。見守りや2人介護で安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況を見て休息をとっていただいています。少しゆっくりテレビを見てから休まれる方もいらっしゃいます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の名前や効果についてケース記録に掲示したり、スタッフの内服への理解を進めています。入居者様に聞かれた時には飲む目的をお伝えしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人一人の嗜好を把握し時々楽しめるように支援を行っています。また、施設内のお手伝いを積極的に行ってくださいるので感謝の気持ちをお伝えしています		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が習慣の入居者様はスタッフが一緒に行って近隣の方とお話することもあります	三居沢河川敷の花見や秋保方面、ファーストフード等へドライブしている。近辺を散歩し庭の花を見せてもらったり挨拶を交わしている。敷地内に羊を飼っており、近所の方や子供達が見に来て餌やり等して交流している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭をご自分で管理されている方もいらっしゃいますが、ご自分で使う機会はあまりないのが現状です		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をくれた方への返信を書くのをお手伝いしています		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所に生花を飾ったり、季節ごとの飾り付けをし、季節感を取り入れています	ホールは日当たりが良く吹き抜けで開放感がある。壁に貼り絵のクリスマスツリーが飾られていて季節を感じる。見事な胡蝶蘭が目を楽しませている。入居者は新聞を読んだりテレビを見たりして自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員とマンツーマンで散歩へ行ったり、隣に座ってお話を聞いたり、居室でゆっくり過ごしていただいたりしています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していたものや、写真などを飾っています	エアコンやベッド、クローゼットが備えてある。使い慣れたイスやテレビ、サイドボード等を持ち込んでいる。備え付けの大きな姿見が身だしなみに役に立っている。横になったりテレビを見る等、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽は手すりを多くし、上手に跨いで入ることができます。また、トイレ内での手すりを使いつかり立ちがしっかりできています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100299		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホーム みたき	ユニット名	蕃山
所在地	仙台市青葉区八幡7-14-17		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの壁飾りを行い、季節感を感じていただいています。また、おやつ作りを一緒に行いスタッフと入居者様とのコミュニケーションを図っています。入居者様とも食事作りを行い、料理の腕をふるっていただいています。入居者様が少しでも笑顔が多く過ごしていただけるように声掛けや誘導を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 12 月 23 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR仙山線葛岡駅から南に徒歩10分程の小高い住宅地の一角にある。職員が道路の除草や除雪を行い、住民から感謝されている。ユニット毎に「入居者の気持ちに添って」や「入居者の個性を尊重し」等の理念を掲げている。法人の医療機関が協力医になっており、住診や相談等連携が取れている。常勤の看護師4名が健康管理や医療との連携を担っている。入居者の楽しみである食事は好みのメニューに応え、新鮮な野菜や食肉を使って提供している。コロナ禍ではあるが、楽器の演奏や合唱など音楽療法を取り入れ、ドライブや買い物等入居者の楽しみや笑顔を大切に日々支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム みたき** )「ユニット名 **蕃山** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とユニットの理念を掲示し、研修やミーティングを通してスタッフと共有を図っています	ミーティングで理念の「入居者の気持ちに添ったケア」や「その人らしく生活できる支援」等話し合っている。食事が美味しかった、楽器の演奏が良かったなど入居者が楽しみ、笑顔が見られるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の挨拶や会話、また雪かきなどを通して近隣の方とのつながりを持っています。また、散歩時に近隣の方ともお話することもありました	地域の親和会から回覧板が届いている。防災訓練や文殊堂のお祭り等に参加している。道路の除雪や草刈り作業を行い感謝されている。羊を飼っていて、地域の方が散歩の途中や子ども達が見に来て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(コロナ以前は)できるだけホームを開放的にし、イベントなどを行い近隣の方と入居者様と一緒に参加することもありました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が出来なかったのですが、法人内での話し合いや外部の方、訪問歯科や訪問マッサージ方との意見交換は行っています	メンバーは地域包括職員や民生委員、家族代表、入居者となっている。コロナ感染もあり、会議は開催していない。書面による開催も行っていない。地域包括と開催について話し合っているが、開催には至っていない。	入居者やサービスの状況、評価の内容等報告や話し合いを持ち、意見をサービスに活かす取り組みが求められている。運営推進会議を年6回以上開催することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの連絡や生活保護の方の対応を通じて協力関係を築いていると思います	市の担当者と生活保護に関する手帳の更新や身上等の相談をしている。地域包括が主催している「はちまん連携の会」にオンラインで参加し、成年後見や身寄りのない方のフォロー等を研修している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束に当たるのか、研修やミーティングを通してスタッフに周知し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます	2カ月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、「身体拘束をしないために」等テーマを決めて検討し、職員にミーティングで伝えている。ベッドから落ちる方について、原因が寂しい思いが強いことを聴き、皆の居る場所に誘導している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる不適切なケアについて研修を行い、日々のケアの中でどのようなことが虐待に当たるかを確認しています。対応方法で気になることはスタッフへの声掛けを行っています	「ちょっと待って」等きつい言葉や制止はその都度職員間で注意し合い、安全確認や見守りで対応するようにしている。法人が行うメンタルチェックのフォローがあり、管理者が職員の話しを聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習し、以前は成年後見制度を活用したいご家族の相談にも乗っていました。現在は利用されている方はおりません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの疑問や質問があった時には、わかりやすく専門的な用語を使わずに説明を行っています。また、見学等の方にも十分時間を取って説明を行っているつもりです		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と話す機会があれば、近況報告を行い、その中でご家族様の要望を聞き出すようにしています	家族から面会の要望があり、事前に連絡をもらい玄関先で行っていたが、冬季は居室で行うようにした。会話の後マスクを外し顔を見てもらっている。遠方の家族とは入居者の様子やワクチン接種など毎月連絡している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とはよく話を行い、職員一人ひとりの考えを聞き運営に活かせるものは反映させています。また、ミーティングも活用しています	職員から提案のあった、食器を軽いものに、ごはん茶碗を色付きの物に換え、誕生会にデザートバイキングを取り入れている。希望休やシフトの変更は柔軟に対応している。スキルアップ研修の希望に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや普段の勤務状態などを把握し努力している部分は認め、感謝を伝えています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の参加を通じて他の事業所の考えや気づいたことを伝え知識や技能の向上を図っています		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携の会への参加や研修会を通じてネットワークづくりを行っています。実際研修で知り合った方と疑問点やどうしたらいいかを話し合ったこともありました	法人のデイサービスの職員が来て、レクリエーションの指導をしてくれている。音楽療法士も来訪し、楽器の演奏や合唱を行っている。ケアマネ研修で知り合った職員と地震後の対応や感染対策等情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どのようなことで困っているのか、また、どのように過ごされているか、情報を収集し、安心して過ごして頂けるように支援を行っています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の見学、相談の段階からお話を聞き関係している相談員からも情報を得て、どのようなことを不安に感じるかを把握し、関係作りを行っています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なのか、何を求めているかを見極め、他の関係者とも相談しどのような対応ができるかを考えています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に手伝っていただけることは参加していただき、良くお話を伺い安心して生活していただける関係を作れるようにしています		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が不安に思っていること、入居者様の現在の状態から今後認知症が進行した状態のことなども含めお話をしています		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲での面会を行い、ご家族との関係性が途切れないようにしています	週2回の訪問マッサージや2か月に1回の訪問理容師と馴染みの関係が続いている。デイサービスを利用し知り合いと会う機会がある。日用品や菓子類などを買いに馴染みの店や近くのコンビニに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立しないようにスタッフが間に入り支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様とも、災害の時などには連絡を行い安否確認していました		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉を発しない方や、うまく表現できない方にもどのような思いを持っているのかを推測したり、ご本人の思いに添えているか検討をしています	洗濯物畳みや飾り物作り等一緒にするとき「何が食べたい、何がしたい」等聞いている。可能なものはすぐに対応している。意思表示が難しい方の笑顔や食の進み具合など、表情の変化を察して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントを行い、その方の生活歴などについて把握を行い、対応を行っています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの健康状態、精神状態を観察し、どのような対応がいいのか、どうしていくかをスタッフ同士で話し合い共有しています		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状を把握しその中で何ができるかを検討し計画策定を行っています	日頃の確認や担当者の意見を聞いて、3か月毎にモニタリングして6か月・12か月毎に見直している。骨折で退院した入居者に移乗の確保や歩行の機会、離床の促進等計画に入れADLの低下を抑えるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについて話し合い、より入居者様にとって良い方法がないか、また、申し送りノートなどで情報の共有を行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて対応を行っています。また、法人の相談員とも連携をとり幅広く対応できるように取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアの活用、訪問マッサージなどの活用を行っています		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の観察を行い、状態変化があるときには主治医に相談し対応を行っています。病院にお連れし診察を受けることもあります	全員、協力医をかかりつけ医にしている。内科と精神科の主治医が月1回往診に来る。休日や夜間、救急時等対応している。訪問歯科は毎週1回来訪している。看護職員が4名おり、健康管理や医師と連携している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お互いに気づいた点を共有し連携を取っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	転院先の相談員さんとの情報交換を行っています		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明の時に終末期についてのご意見をお聞きしています。また、体調の変化時には今後の対応も含め、主治医、ご家族様と一緒に検討を行います	「入居者が重度化した場合における対応に関する指針」で入居時に説明している。状態の変化に応じて医師や職員が連携して家族の意向に添う支援をしている。過去4名の方を看取ったが、ここ1年は病院へ転院している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慣れていないスタッフにはどのような点について観察するのか、どのような注意が必要かを実践を通して伝えています		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の活用、法人本部との連携、仙台市からのハザードマップの確認等を行っています	年2回マニュアルに基づき火災、昼間想定訓練を行っている。目標達成計画の「訓練後の反省や報告」は達成している。地域住民の参加はコロナ禍の状態で自粛している。	年2回の訓練は行っているが、夜間想定訓練は行われていない。最低年1回夜間想定訓練を実施してほしい。災害発生時に地域の協力は必要であり、訓練への参加をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重し、対応を行っていますが、距離が近いので言葉には気を付けています	馴れ馴れしい言葉遣いや声がけはしていない。呼び名は名前にさん付けで行い、トイレの誘導や失敗時等耳元でやさしく他に聞こえないよう声がけている。居室への入室はノックして要件を伝えて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のご希望をお聞きし、どのような思いなのか、言葉を発せられない方は表情を見て推測し思いをくみ取れるようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせて過ごしていただいています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に靴を選びに行ったり入浴の際の着替えを選んでいただいたりしています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所でスタッフと一緒に調理を行ったり、食器を拭くのを手伝ってくださいます	献立や調理は職員が行っている。うどんや肉じゃが等食べたいものや好きなものを聞いて出している。誕生会に寿司や刺身、手作りケーキ、果物が喜ばれる。季節ごとにはらこ飯や冬至カボチャ等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりが食べやすいように工夫をしています。食事量が少ない時には、ハイカロリーゼリーなどの対応を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を活用し、口腔内の清潔保持を行っています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを試用していた方が日中は下着に変わったり、状態に応じて対応を行っています	起床時や食事、おやつの前後に声かけ誘導している。個人のパターンや立ち上がり等の動作で誘導している方もいる。日中はほとんどがトイレで排泄し、個々に適したパッドを使用し軽量化を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家製甘酒の提供や乳製品を取り入れることにより、薬に頼らない便秘の改善を目指しています		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様のタイミングを見ての入浴や誘導の際も声掛けに工夫し入浴を行っています	週2回が基本になっているが、汗や濡れた時等シャワーを使っている。湯加減は調節し、入浴剤を使用している。入浴を嫌がる場合は順番やスタッフを変えて対応している。見守りや2人介護で安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態を見て、休息をとったり就寝時間も個々に対応するなどし、安心して眠れるように支援を行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような効果のある薬なのか、用法用量については看護師を中心に行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドアセスメントを行ったり、会話の中で得た情報を共有しています。台所を手伝ってくださる方もいらっしゃいます		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外を散歩したり、車で買い物に出かけたりしています	三居沢河川敷の花見や秋保方面、ファーストフード等へドライブしている。近辺を散歩し庭の花を見せてもらったり挨拶を交わしている。敷地内に羊を飼っており、近所の方や子供達が見に来て餌やり等して交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金の所持は行っていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話がくるご家族様や、入居者様から電話の申し出があった時には対応を行っています		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節ごとの飾り付けを行ったり、鉢植えの花が有ったりと季節感を感じていただけるように工夫を行っています	ホールは日当たりが良く吹き抜けで開放感がある。壁に貼り絵のクリスマスツリーが飾られていて季節を感じる。見事な胡蝶蘭が目を楽しませている。入居者は新聞を読んだりテレビを見たりして自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を工夫したり、入居者様同士で会話をしたり、独りになって過ごしても、周囲から完全に孤立しないようにしています		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな仏壇を持ち込まれた方もおられ、ご本人が気持ちよく生活できる環境を整えています	エアコンやベッド、クローゼットが備えてある。使い慣れたイスやテレビ、サイドボード等を持ち込んでいる。備え付けの大きな姿見が身だしなみに役に立っている。横になったりテレビを見る等、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所に入ってしまう入居者様がいらっしやたので扉を付け必要時には扉を使用し安全を図っています		